

2016年3月期 (2015年4月～2016年3月)

# 決算説明資料



千葉工場

 **東洋合成工業株式会社**

2016年5月20日 (金)

# 1 . 2016年3月期 通期 決算概要

---

## 2016年3月期 通期 決算のポイント

- 当期の業績は前期に引続き拡大し、大幅増収増益
- 売上高は、17,919百万円（+6.3%、+1,056百万円）感光材・化成品ともに堅調に推移
- 営業利益は、966百万円（+90.9%、+460百万円）と大幅増益
- 経常利益は、688百万円（+1.6%、+11百万円）前年のような特殊要因は無く、ほぼ同水準
- 当期純利益は、468百万円（△13.3%、△72百万円）繰越欠損金の解消による税金増加

科目 (百万円)	前期実績 (A)	当期実績 (B)	増減額 (B) - (A)	前期 実績比 (%)	2016年3月期 通期計画※	計画比 (%)
売上高	16,863	17,919	+1,056	+6.3	18,100	△1.0
営業利益	506	966	+460	+90.9	890	+7.8
経常利益	677	688	+11	+1.6	700	△1.7
当期純利益	540	468	△72	△13.3	490	△4.7
為替レート (売上平均レート)	109.18	120.71	+11.53			

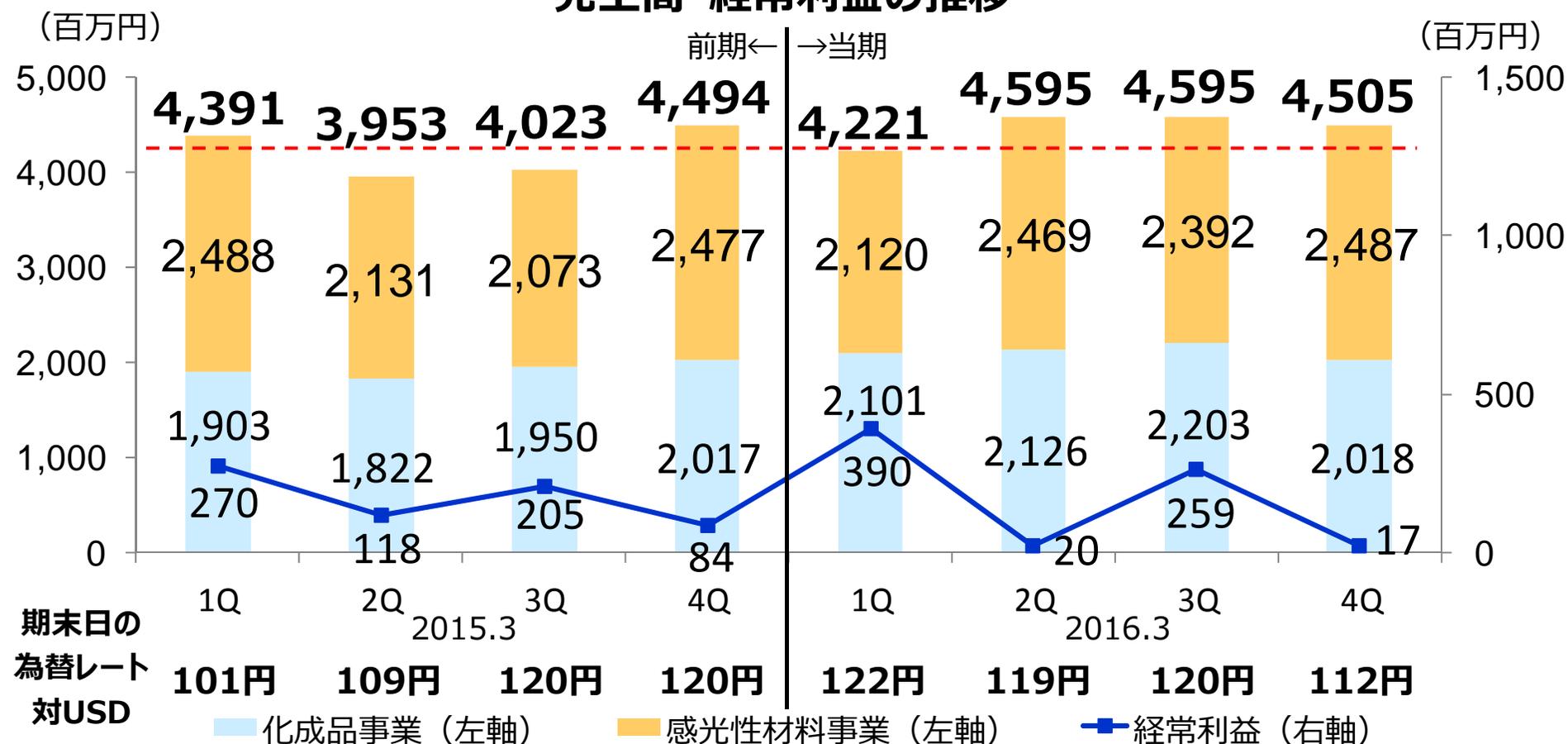
※2015年5月8日発表

## 売上高・経常利益推移（四半期別）

売上高 : 当期の売上高は2Q以降每期45億円を超え、前期比増収

経常利益 : 売上高の拡大に伴い、利益水準が向上。但し、2Qの工場定期修繕、4Qの円高、及び金利低下に伴う退職金給付引当増（49百万円）等の影響あり

### 売上高・経常利益の推移



# 感光性材料セグメント

## ● 感光性材料セグメントは増収増益

### ● 売上高

9,469百万円（+3.3%、+300百万円）の増収  
感光材は半導体関連、FPD関連ともに堅調

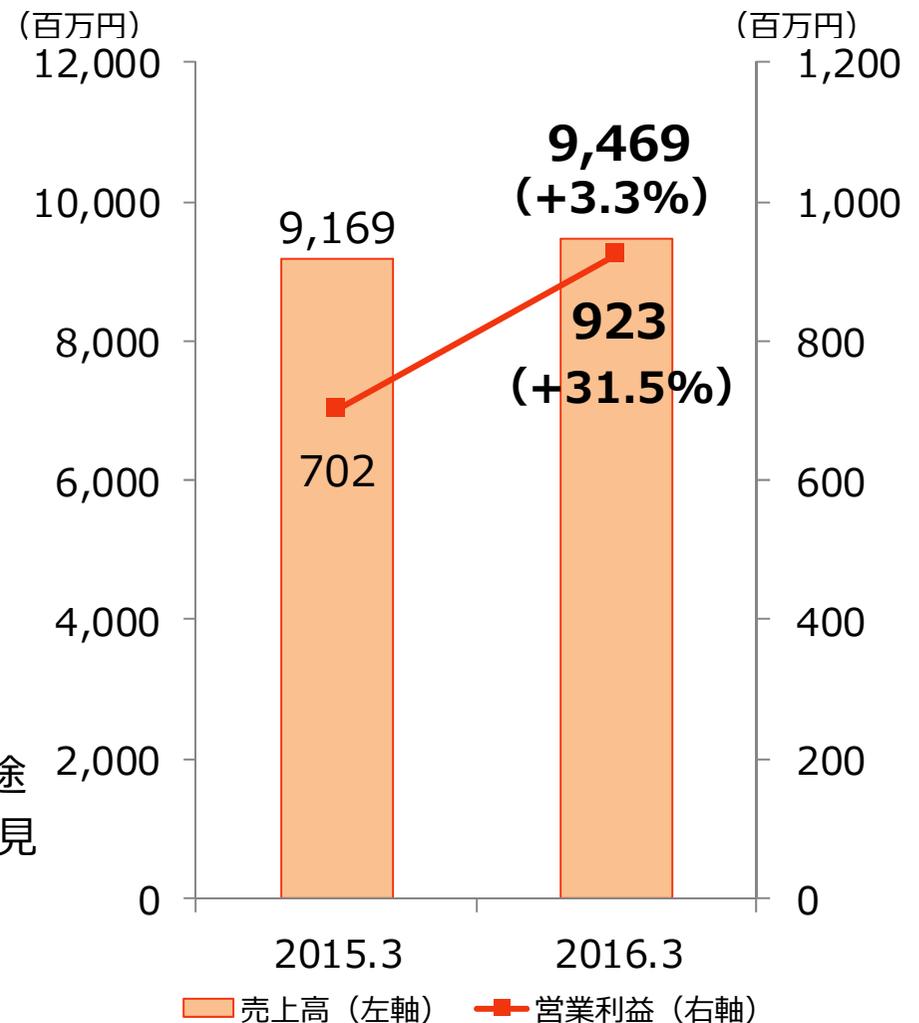
### ● 営業利益

923百万円（+221百万円、+31.5%）の増益  
高付加価値品へのシフトが進み粗利益率が改善

### ● マーケット

高精細テレビの向け等FPD関連の需要は底堅く、  
スマホ、高精細テレビ、車載LCDなど需要拡大  
今後は有機ELパネルの拡大が見込まれる  
半導体関連は、IoTの進展、車載用、LED等の用途  
拡大及び三次元化により感光材マーケットは成長が見  
込まれる

## 売上高及び営業利益



# 化成品セグメント

## ● 化成品セグメントは全部門順調に改善し黒字化

### ● 香料材料部門

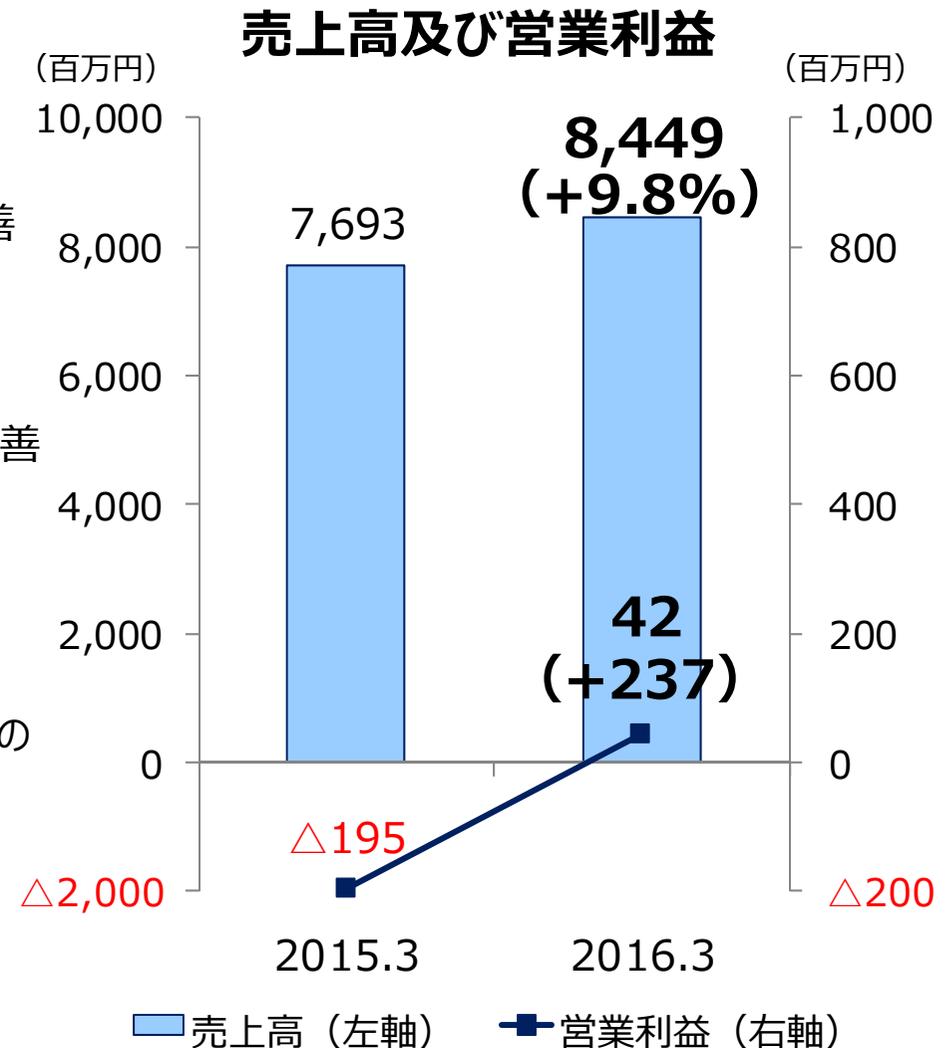
海外主要顧客を中心に受注増加し、大幅増収  
稼働率・収率向上により原価改善が進み利益改善

### ● グリーンケミカル部門

電子材料向け溶剤の販売が好調に推移し利益改善

### ● ロジスティック部門

タンクの稼働率は90%後半を維持  
回転率の増加、タンク洗浄・ブレンド等の委託業務の  
増加もあり、最高益を記録



# 損益計算書 (要約)

売上総利益・・・増収効果、工場稼働率向上等による原価改善により粗利率2.9pt向上

販管費・・・・・・試験研究費・人件費の増加、及び人事制度・組織改定費用等により、237百万の増加

営業利益・・・・売上増、利益率の改善により、前年比460百万円（+90.9%）の大幅増加

営業外損益・・・営業外収益は、前年同期に為替差益（221百万円）、淡路工場補助金（76百万円）があり、342百万円の減少。営業外費用は、今期、為替差損（125百万円）を計上し105百万円の増加

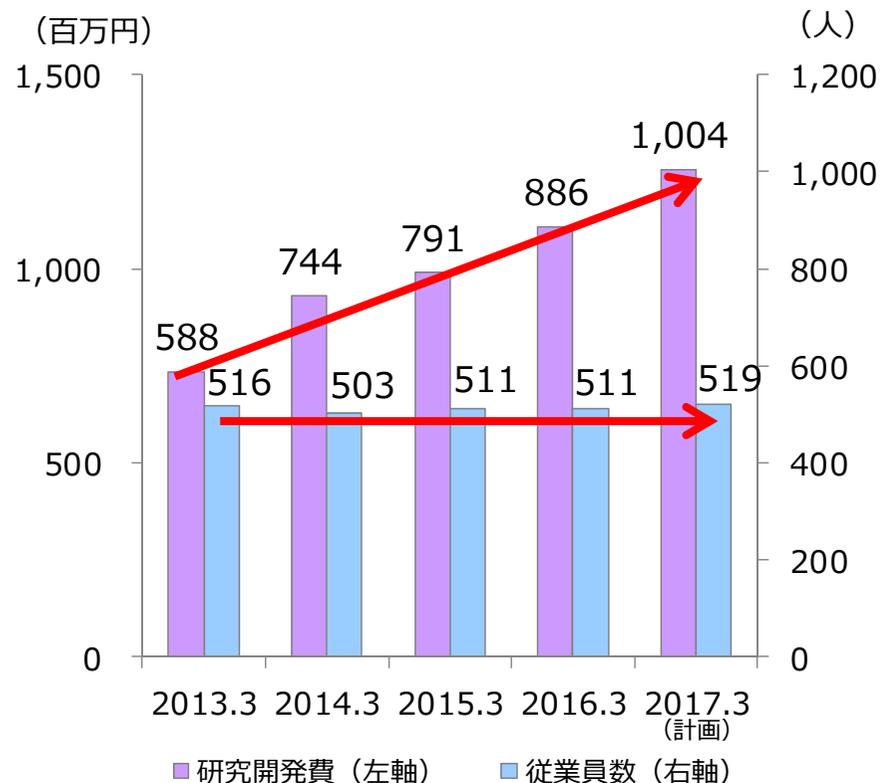
科目 (百万円)	2015.3期	2016.3期	対前期比	
			増減額	増減率
売上高	16,863	17,919	+1,056	+6.3%
売上原価	13,972	14,332	+360	+2.6%
売上総利益 (売上総利益率)	2,891 (17.1%)	3,587 (20.0%)	+696 (+2.9pt)	+24.1%
販売管理費	2,383	2,620	+237	+9.9%
営業利益	506 為替差益、補助金	966	+460	+90.9%
営業外収益	435	93	△342	△78.6%
営業外費用	265	370	+105 為替差損	+39.6%
経常利益	677	688	+11	+1.6%
特別利益	—	0	—	—
特別損失	315	6	△309	△98.1%
税引前当期純利益	361	682	+321	+88.9%
法人税等	△179	214	+393	—
当期純利益	540	468	△72	△13.3%

# 研究開発・設備投資・減価償却

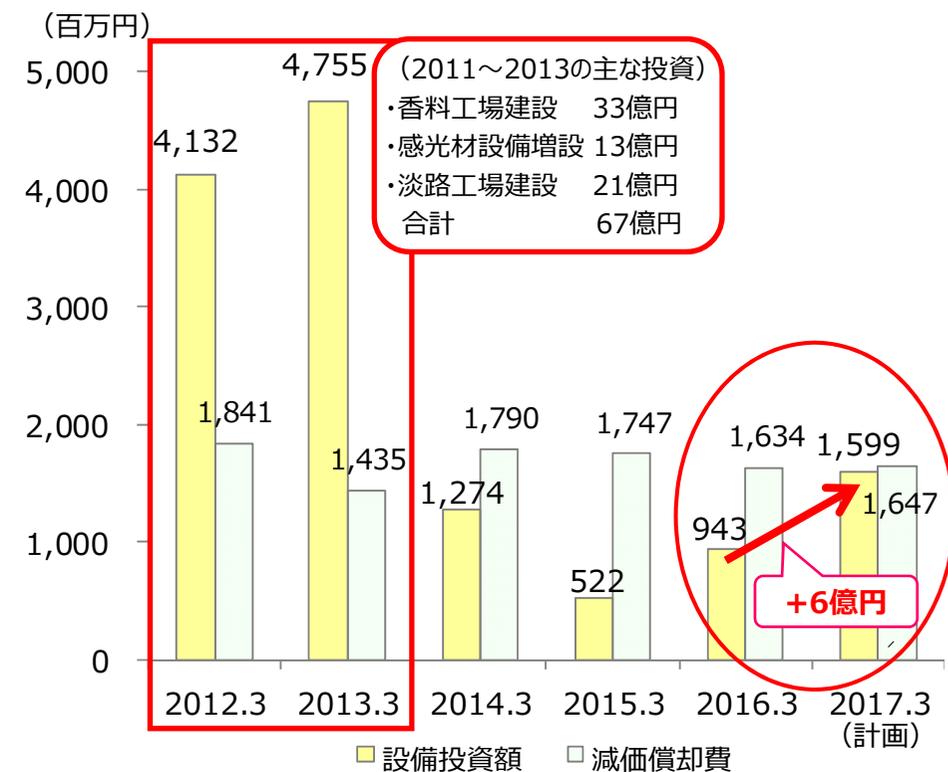
研究開発費は、感光材を中心に前期比1.1億円増の10億円。今後さらにマーケティング、研究開発、生産技術の体制強化を図っていく

設備投資額は前期比656百万円増加の1,599百万円。半導体回路の微細化の進展に伴う需要を取り込むべく、先端品の設備能力の増強を行う

## 研究開発費と従業員数の推移



## 設備投資と減価償却費の推移



## 貸借対照表 (要約)

資産合計・・・総資産は、財務改善を図り、416百万円の減少

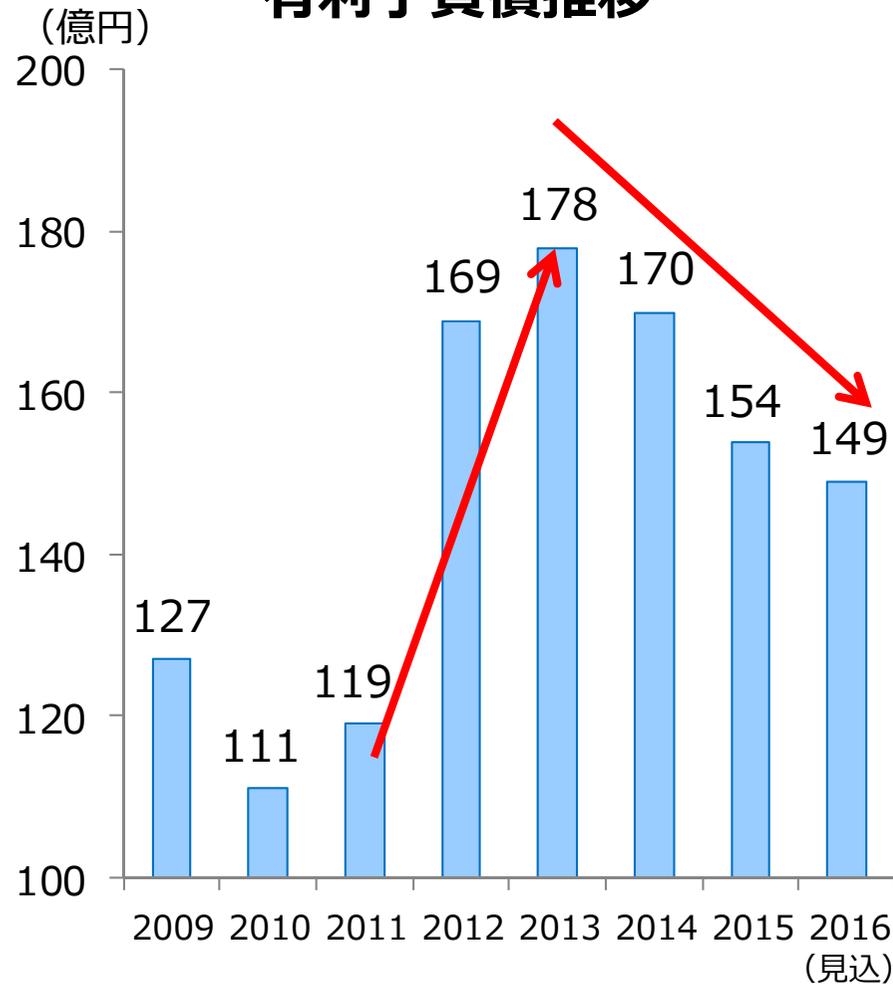
固定資産・・・減価償却の進行による有形固定資産の減少（△715百万円）により773百万円の減少

負債・・・有利子負債は、1,477百万円の減少。負債全体は設備投資の増加、及び販売増に伴う原材料の購入等が増加し696百万円の減少にとどまる

科目 (百万円)	2015.3末	2016.3末	増減	科目 (百万円)	2015.3末	2016.3末	増減
流動資産	10,754	11,111	+357	負債	22,122	21,426	△696
現金預金	1,377	1,326	△51	買掛債務	1,900	2,100	+200
売上債権	3,040	3,016	△24	有利子負債	16,950	15,473	△1,477
棚卸資産	5,949	6,330	+381	その他	3,272	3,853	+581
その他	388	437	+49				
固定資産	17,894	17,121	△773	純資産	6,526	6,806	+280
有形固定資産	16,978	16,263	△715	株主資本	6,468	6,801	+333
無形固定資産	321	335	+14	評価・換算差額等	58	4	△54
投資・その他	593	522	△71				
資産合計	28,648	28,232	△416	負債・純資産合計	28,648	28,232	△416
				自己資本比率 (%)	22.8	24.1	+1.3
				D/Eレシオ (倍)	2.6	2.3	△0.3

# 財務改善

## 有利子負債推移



- 化成品事業の2工場建設により、有利子負債が増加
- 財務改善に取り組み、2014年3月期をピークに減少傾向
- 今後も成長投資を鑑みながら、財務改善を継続させていく

## キャッシュフロー計算書 (要約)

営業キャッシュフロー…… 営業キャッシュフローは、前年同期比579百万円 (+35.0%) の増加  
 フリー・キャッシュフロー…… 営業キャッシュフローの改善、投資キャッシュフローの減少により、  
 前年同期比838百万円 (+102.6%) 増加で1,655百万円と倍増  
 財務キャッシュフロー…… 増加したフリー・キャッシュフローにより有利子負債の返済を加速

科目 (百万円)	2015.3期	2016.3期	増減額
営業活動によるCF…… (A)	1,653	2,232	+579
税金等調整前純利益	361	682	+321
減価償却費	1,747	1,634	△113
売掛債権の増減額	△578	23	+601
たな卸資産の増減額	△479	△381	+98
仕入債務の増減額	38	200	+162
その他	564	74	△490
投資活動によるCF…… (B)	△836	△577	+259
<b>フリー・キャッシュフロー (A+B)</b>	<b>817</b>	<b>1,655</b>	<b>+838</b>
財務活動によるCF	△931	△1,679	△718
現金及び現金同等物の増減	△76	△56	+20
現金及び現金同等物の期末残高	974	917	△57

2015.3の売上増により、売上債権増加

減損損失：108  
退職引当：189  
補助金収入：75

## 2. 2017年3月期の業績予想

---

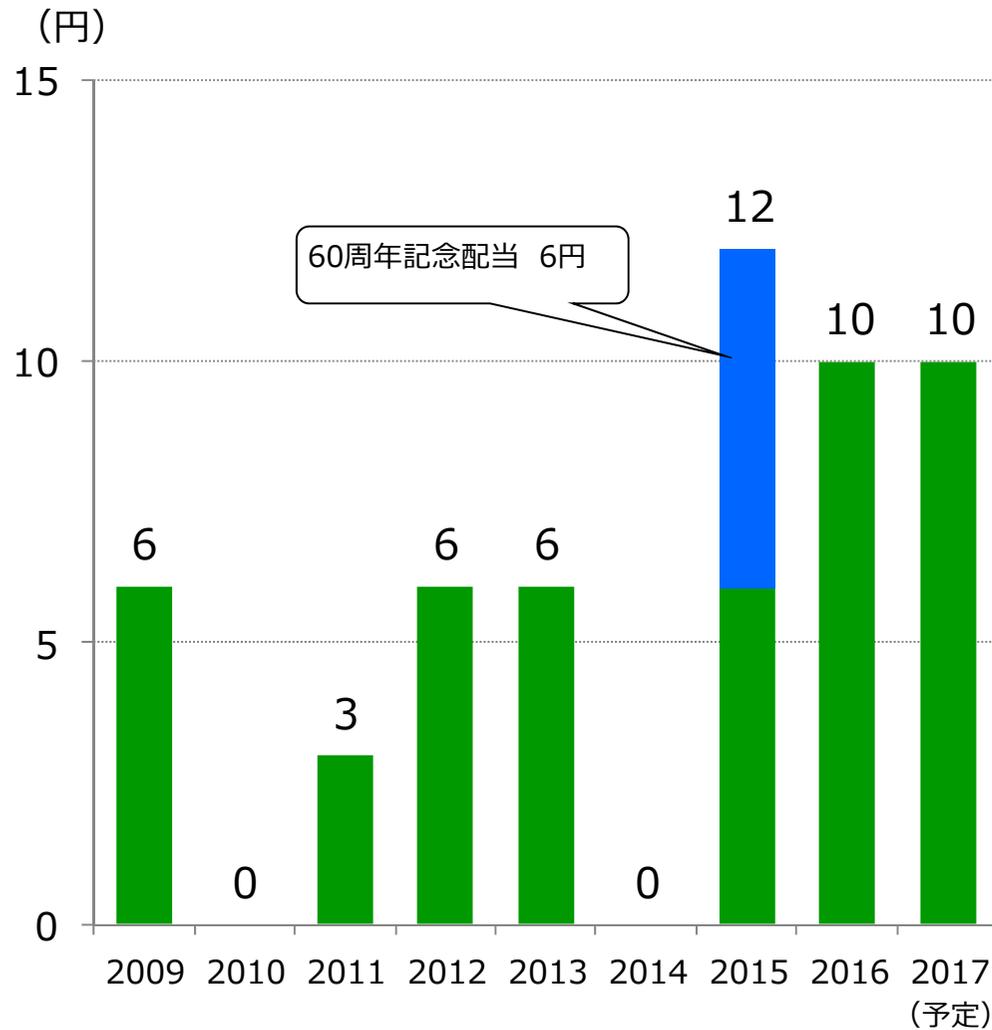
## 2017年3月期 業績予想 (2016年5月13日開示)

為替感応度：¥1/\$の為替変動で経常利益32百万円の影響

科目 (百万円)	2016年3月期 実績	2017年3月期 通期予想	対前期比 増減額	対前期比 増減率
売上高	17,919	18,000	+81	+0.5%
営業利益	966	650	△316	△32.7%
経常利益	688	450	△238	△34.6%
当期純利益	468	290	△178	△38.0%
為替レート (USD)	121円	108円		

# 株主還元

## 年間配当金額



- 安定配当を基本方針とし、財務面の改善、成長投資を勘案し決定
- 2015年3月期は、通常配当6円に加え記念配当6円を実施
- 2017年3月期は、前期同額の10円/株を予定

### 3. 今後の展望について

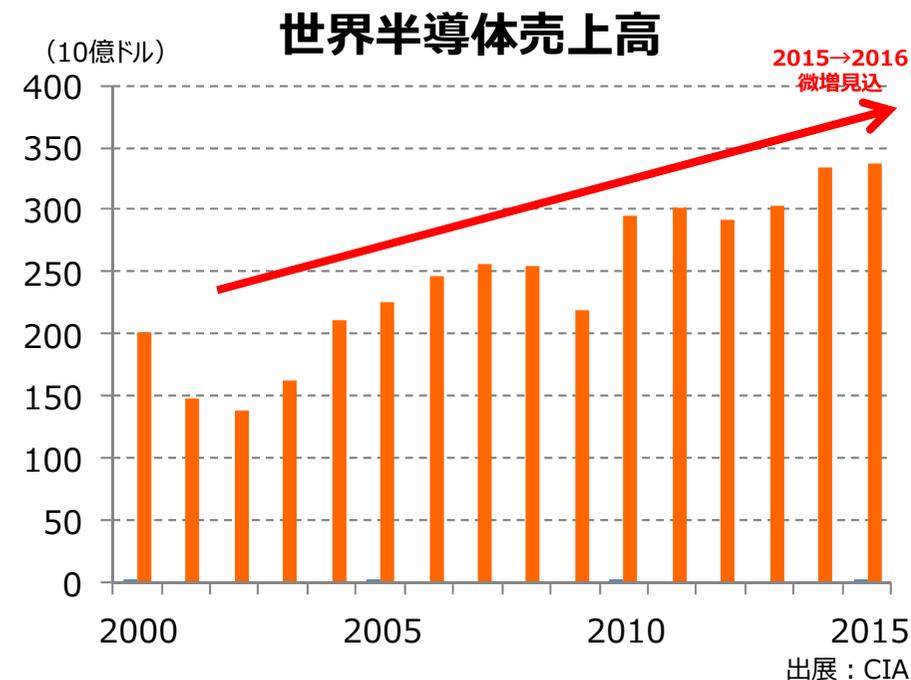
---

# 感光性材料セグメント・化成品セグメント

先端半導体レジスト需要は、ArF世代の延長に伴い拡大。先端品の開発需要も旺盛

LCD向けレジスト需要は、台湾・韓国・中国におけるFPD生産拡大により、成長が続く

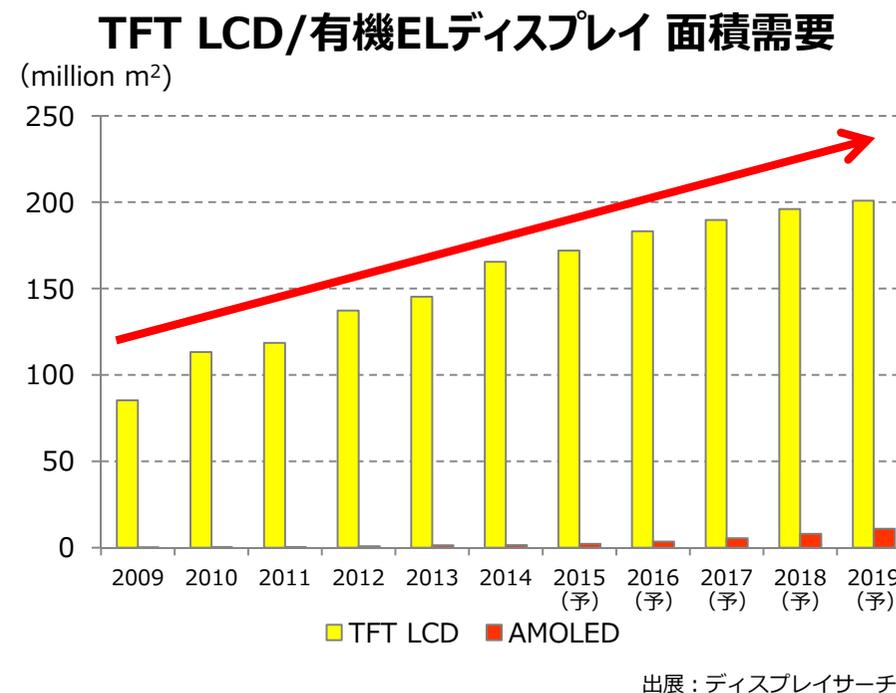
FPD向け感光材は、画面の微細化に伴い高純度感光材のニーズが顕著化



世界半導体売上高は、2009年にリーマンショックの影響があったものの、拡大基調は続いている。

先端品 : スマートフォン好調

g、i線 : 車載半導体、LED、パワーデバイス



スマートフォン、4Kテレビ、車載LCD、LCD広告等で牽引。引き続き需要は緩やかに拡大見込み。

# 感光性材料セグメント

半導体の微細加工技術と多層化が進展し、14nmノードまで量産化が進行

現在はArFの技術を改良し、微細化を進めている段階

今後は、全ての世代の感光材の品質向上と多層化に対応し、製品ラインナップの更なる拡充を図る

	LCDパネル用		半導体用							
	g+h+i 線	i線	g線	i線	KrF		ArF			EUV
							液浸	ダブル パターニング	マルチプル パターニング	
線幅	~ 2,000nm	~ 1,000nm	~700nm	~200nm	~110nm	~65nm	~45nm	~22nm	~5nm	~3nm
用途	テレビ用、 一般用	先端中小型 パネル	IGBT、LCDドライバ、 LED		DRAM / NAND FLASH メモリ					次世代ロジック LSI
			先端ロジックLSI							
			スマートフォ ン タブレットに よる拡大		緩やかに縮小	拡大	やや拡大	横ばい	量産化 急拡大	
市場	新興国の 需要増									

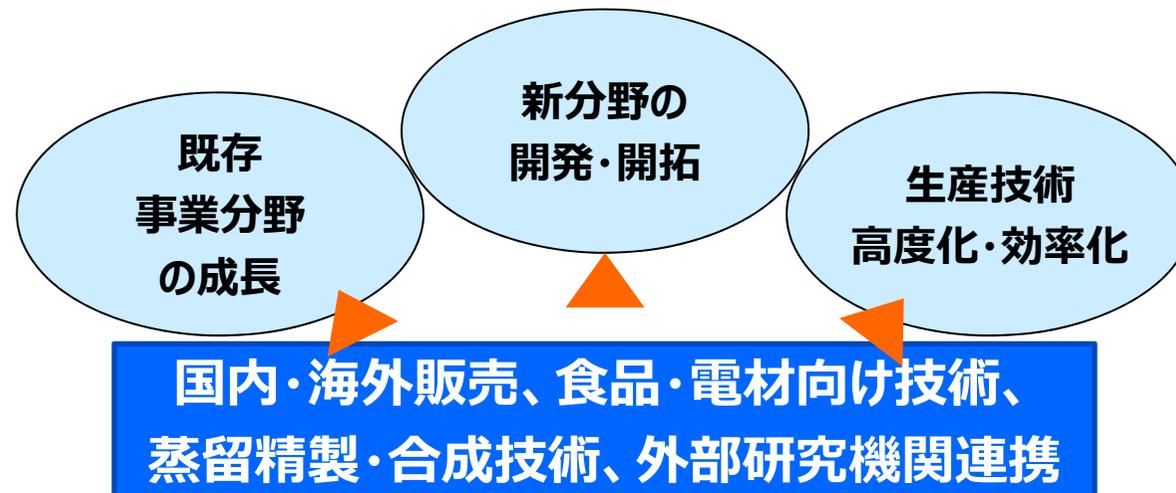
← 当社製品・研究開発のアプローチ範囲 →

# 化成品セグメント

組織改革として、2016年5月に香料材料部門とグリーンケミカル部門を統合

既存事業で持つ強み、ノウハウを活かし、新製品開発、新用途開拓、既存分野以外の市場開拓により、新事業を育てていく

化成品3工場（市川・香料・淡路工場）連携による最適生産と、生産技術の高度化による生産効率化



## 化成品事業

### 香料材料分野

- 海外販売中心
- 食品向け開発技術、合成技術
- 外部機関との連携

### グリーンケミカル分野

- 国内販売中心
- 電子材料向け、高純度溶剤の蒸留精製技術

## 化成品セグメント（ロジスティック分野）

サービスレベルと顧客満足のさらなる向上により、需要確保

外環道開通（平成29年度予定）による関東一円へのアクセスが向上、一段の利便性UPをお客様へ訴求  
お客様、運送会社を含めた安全啓蒙活動などを積極的に推進し、当社油槽所の特徴を共有

### 高い参入障壁と好立地条件

- 東京湾岸での新規参入は、消防法規制による高いハードルがあり、困難
- 東京湾岸に立地、高速出入口にも近接しており好立地と抜群の交通アクセス
- 外環道の開通により利便性がさらに向上

### サービスの差別化

- 多様な受入形態・保管施設を有し、充実した受払サービスを提供
- ファインケミカル事業で培ったノウハウを活かし、品質管理に強み

### 外環道開通により回転率が一層向上



高浜油槽所（市川）は、平成29年度開通予定の外環道高谷ICに近接しており、開通により一層、顧客の利便性が拡大。

関東近郊への配送時間短縮により、タンク回転率の向上が見込まれる。

## 長期の事業環境認識

成熟した社会、不安定な政治・経済環境により、厳しい事業環境が続いているなか、  
素材産業では、機能性化学品、新興国需要へのシフトが続いている

### 政治・経済

- ✓ 総需要不足
- ✓ 経済の停滞
- ✓ 政治不安定
- ✓ 地政学リスクの増大
- ✓ 災害リスクの増大

### 社会

- ✓ 充足感の増大
- ✓ 少子高齢化
- ✓ 手堅い消費
- ✓ 安心・安全

超低金利・円高・原油安

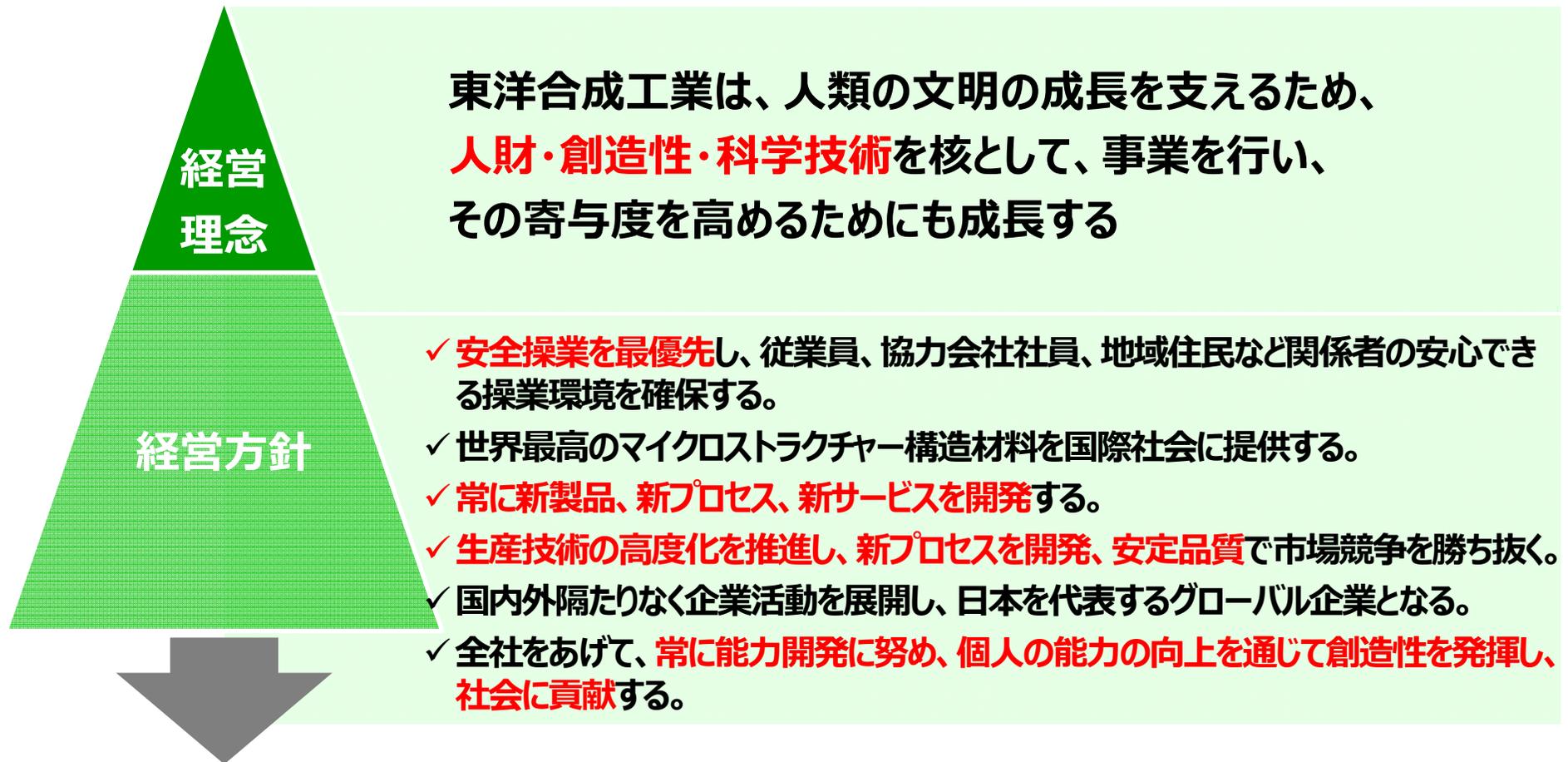
イノベーション  
による需要喚起

機能性化学品  
開発加速・参入増加

新興国の所得拡大  
による需要喚起

人口増の新興国への  
技術移転加速

# 当社の目指す姿



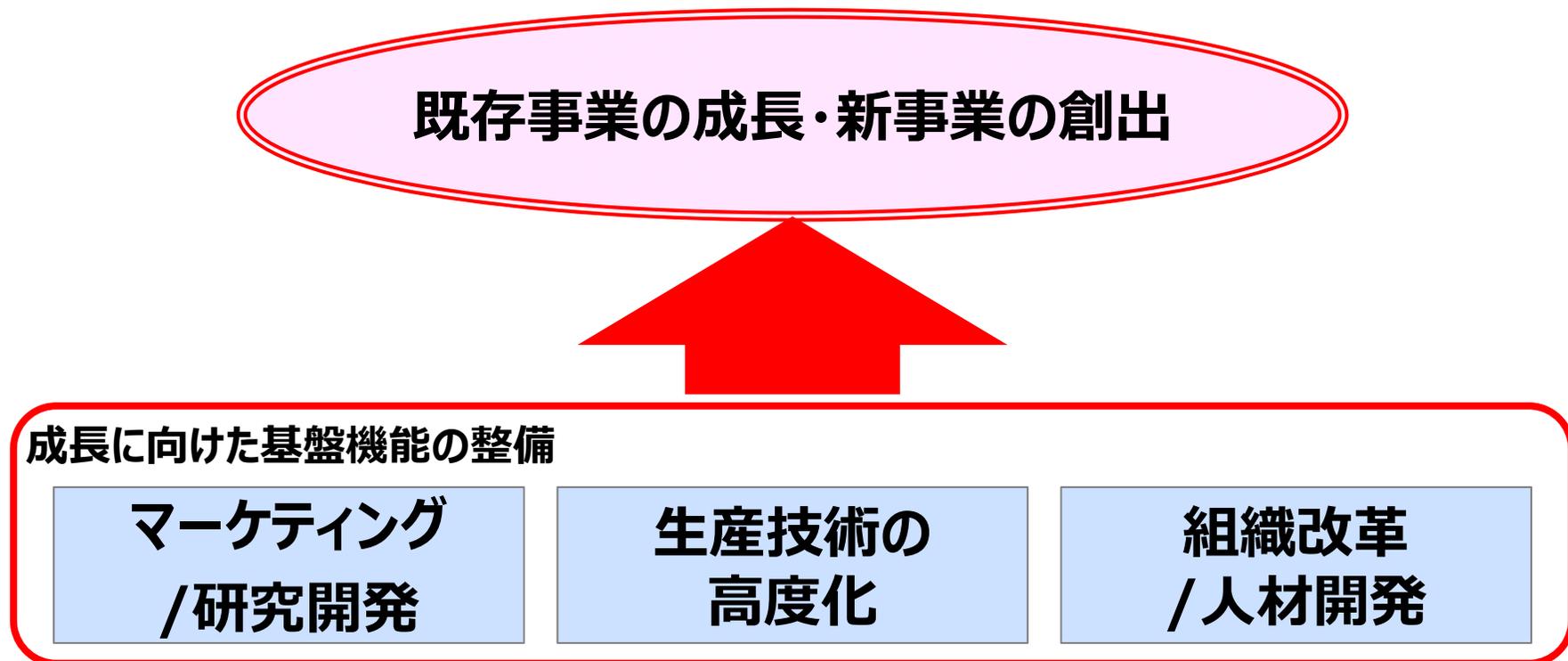
**創造的かつ先進的な製品/サービス開発を通して、顧客最終製品の競争力を強化することで人類文明、社会に貢献する。**

## 今必要なこと～機能強化

今後は成長に向けた取り組みを強化。重点的な取り組みは次の3点

- ① 新事業創出のためのマーケティング・研究開発の強化
- ② 生産技術の高度化による資産効率の向上
- ③ 優秀な人材確保と生産性向上のため、組織改革・人材開発を強化

これにより、事業成長に向けた基盤を整備していく



## TOPIC：新製品「PXB-able」の発売開始について

Cell-able® は、水溶性感光材技術を応用し製品化。2003年販売開始

2014年10月、世界最大の検査受託機関であるEurofins Panlabs の癌アッセイサービスで採用

2014年10月発売開始の Ready to use 3D ヒト肝細胞培養プレートは、研究用途に限定し販売してきたが、認可取得に伴い、2016年5月より商業用販売開始（5月：試験販売、6月：一般販売）

### PXB-able™ 特徴

#### •Ready-to-use

予め新鮮ヒト肝細胞を播種した状態でお客様にお届けするため、直ちに薬剤暴露試験を開始可能

#### •肝特異的機能を長時間維持

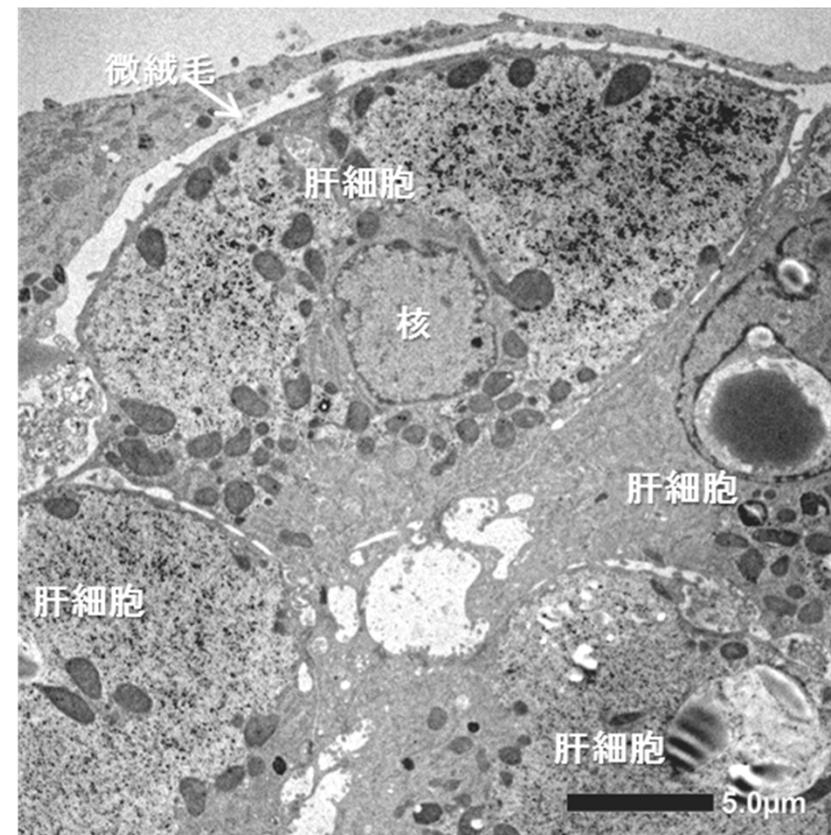
代謝物による毒性評価、薬物に長時間暴露されることによって初めて顕在化する肝毒性の検出等、薬物性肝毒性を多面的に検討可能

#### •トランスポートブル

プレート基盤表面に細胞が接着しているため、細胞培養期間中も輸送可能

#### •食品、化粧品、医薬部外品にも使用可能

従来の薬物性肝障害予測試験だけでなく、食品、化粧品、医薬部外品の安全性評価でも使用可能



PXB-able™ スフィロイド断面のTEM写真  
旭川医科大学 西川祐司教授監修

独創的な視点で世界へ

Individual Development, to the global Chemical

# 東洋合成工業株式会社

(見通しに関する注意事項)

本資料の業績予想は、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。

従いまして、実際の業績は、様々な要因やリスクにより、この業績予想とは大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。